

温熱療法治療中の患者に対する緩和ケア認定看護師としての関わり

一般社団法人玉名郡市医師会立 玉名地域保健医療センター
安田和史、野田友美、三井友美、上門仁美、井尾健剛、赤木純児

【目的】

がん患者はトータルペインをもつといわれている。その、苦痛を軽減するために、緩和ケア認定看護師として関わっている。今回、症例を通して STAS-j を用いて関わりの前後で評価し、分析を行った。

【症例】

A 氏、50 歳代、女性。大腸がん、多発肝転移のため温熱療法施行中。今回、肝転移巣増大を認め、今後に対する不安の訴えがあった。

【考察】

がん治療を受ける患者の苦痛を軽減するために、温熱療法治療中の 40 分の中で患者の訴えを傾聴し、アドバイスや患者と共に対策を考えることができると考える。患者の側で関わることの多い看護師は、患者と多職種との懸け橋的な存在でもある。今後の課題は、多職種と連携をさらに強化し、チームとして患者を支えていくことである。